

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

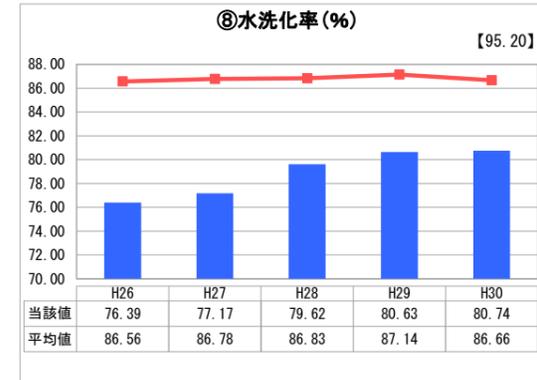
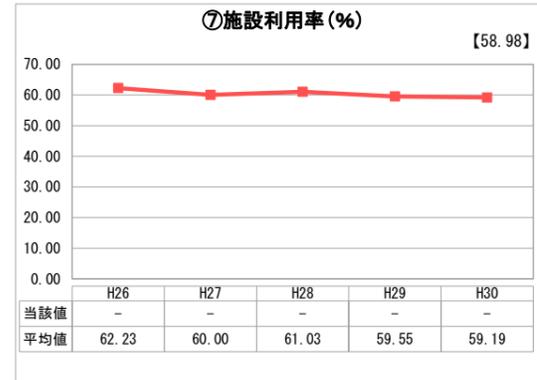
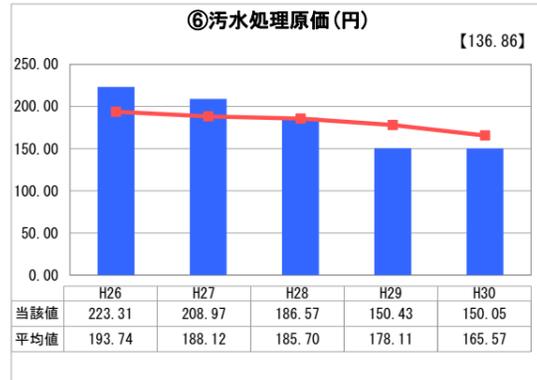
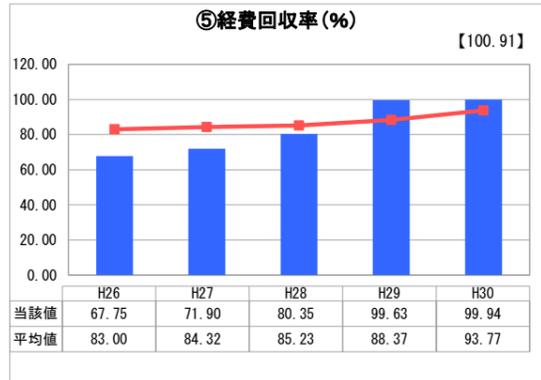
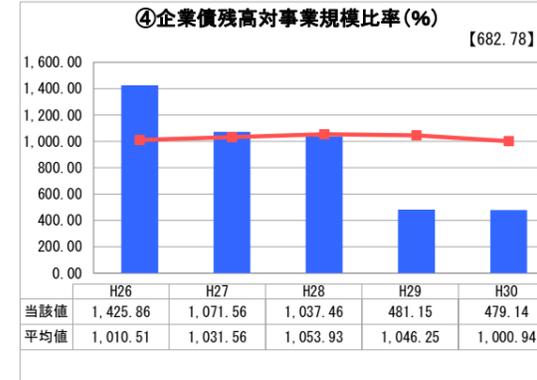
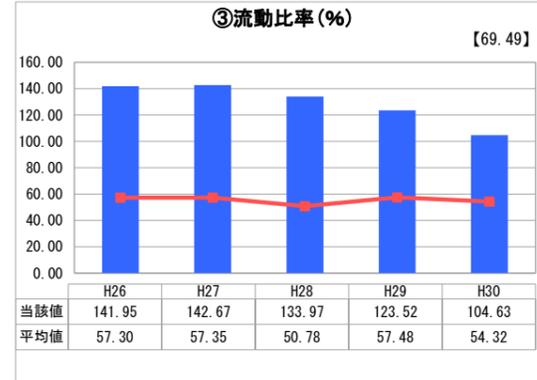
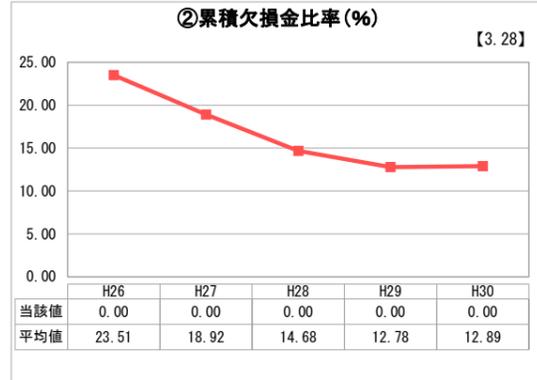
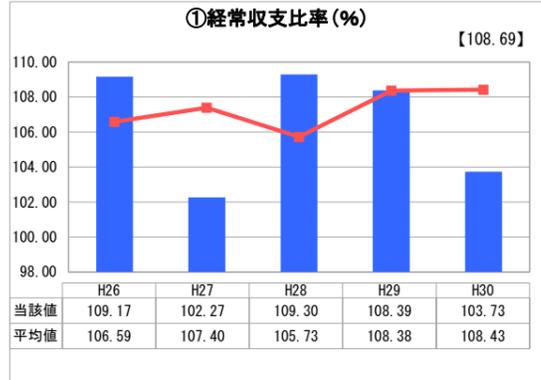
三重県 伊勢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	50.90	50.72	99.92	2,484

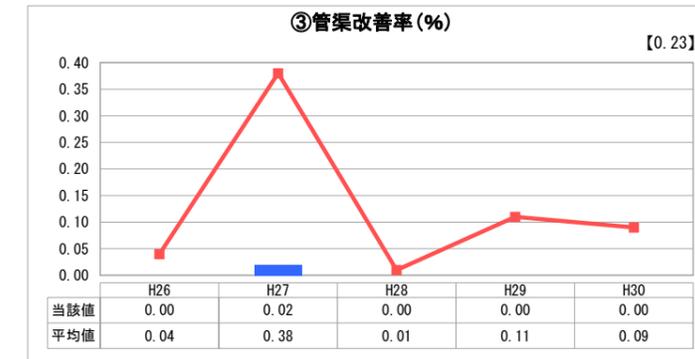
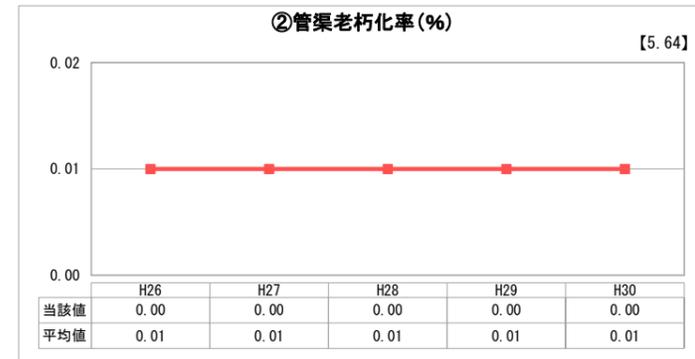
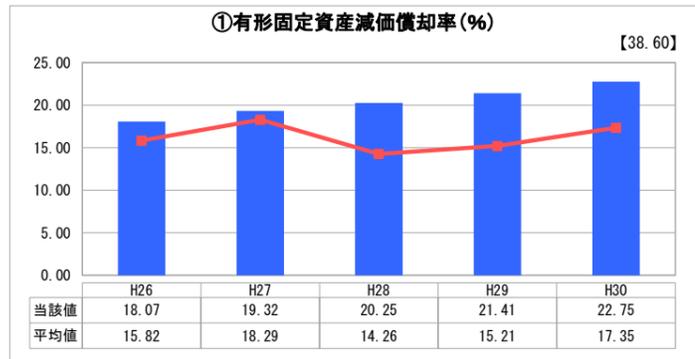
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
126,573	208.35	607.50
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
63,939	16.22	3,941.99

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性においては、①経常収支比率が単年度の収支が黒字であることを示す100%を超え、かつ、②累積欠損金が発生していないことを示す0%であることから健全であると言える。また、⑤経費回収率も100%に近づき、使用料で回収すべき経費をほぼ使用料で賄えていると言える。

また、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す③流動比率は100%を超えており、短期的な債務の支払に問題はない。料金収入に対する企業債残高の割合を表す④企業債残高対事業規模比率も全国平均値を下回っていることから健全な財政状態であることがわかる。

処理区域内人口のうち、実際に下水道に接続している人口の割合を表した⑧水洗化率は類似団体よりも低いが、有収水量1mあたりの汚水処理に要した費用⑥汚水処理原価も類似団体より低い状態にあり良好な経営状態である。

なお、平成25年度中に流域下水道に接続替えにより汚水処理施設を廃止し、経費の削減を図ったため、⑦施設利用率は0%である。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表し資産の老朽化度合を示す①有形固定資産減価償却率は類似団体平均値よりも高くなっているが、22.75%であるため老朽化については問題ないと言える。また、法定耐用年数を経過した管渠はないため、②管渠老朽化率及び③管渠改善率についても0%である。

## 全体総括

当市の下水道事業の経営状況は、現在、比較的健全かつ効率的に運営していると言えるが、今後も供用区域においては適正な維持管理に努め、水洗化率の向上を図り使用料収入の確保と処理費用の削減に努める必要がある。

一方で、流域関連公共下水道の供用区域の拡大を進めるため、経営戦略の投資計画に基づき、下水道未普及対策事業など合理的な設備投資の実施に努める必要がある。また、災害に強いライフラインの整備として、勢田川流域等浸水対策実行計画に基づく浸水対策に取り組むとともに、長期的な視点で下水道施設全体を対象とした耐震対策や老朽化した施設の強化・更新を進める下水道ストックマネジメント計画の策定に着手している。

さらに、令和元年度には全体計画の見直しに着手し、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組んでいく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。